

新変額
個人年金保険
無配当

リズナブル

REASONAB-LE

新変額個人年金保険(無配当)<特別勘定グループ(TG型)>

月次運用実績レポート

2016年9月

特別勘定の名称	主な運用対象の投資信託	投資信託の運用会社
日本株インデックス型 (TG)	インデックスファンド 225	日興アセットマネジメント株式会社
日本株アクティブ型 (TG)	フィデリティ・日本成長株・ファンド VA3(適格機関投資家専用)	フィデリティ投信株式会社
世界株式型 (TG)	アムンディ・世界好配当株式 VA (適格機関投資家専用)	アムンディ・ジャパン株式会社
新興成長国株式型 (TG)	GIM・BRICS5・ファンド (適格機関投資家転売制限付)	JPモルガン・アセット・マネジメント 株式会社
中国株式型 (TG)	* HSBC チャイナファンドVAⅡ号 (適格機関投資家専用)	HSBC投信株式会社
世界債券型 (TG)	グローバル・ソブリン・オープンVA (適格機関投資家専用)	三菱UFJ国際投信株式会社
海外リート型 (TG)	ノムラ海外 REIT インデックス・ ファンドVA(適格機関投資家専用)	野村アセットマネジメント株式会社
マネープール型 (TG)	フィデリティ・マネープール VA (適格機関投資家専用)	フィデリティ投信株式会社

* 「HSBCチャイナファンドVAⅡ号(適格機関投資家専用)」(運用会社:HSBC投信株式会社)は、2016年11月中に償還され、2016年11月より新たに、「HSBCチャイナファンドVA(適格機関投資家専用)」に投資する予定となっております。

<引受保険会社>

<募集代理店>

株式会社 但馬銀行



0120-164-230

たんざん相談ダイヤル
受付時間/9:00~19:00
(土・日・祝日のほか、1月1日~3日、12月31日は除く)



〒108-8020 東京都港区白金1-17-3
TEL 0120-933-399
アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>

特別勘定名称

日本株インデックス型(TG)

運用方針

国内の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、日経平均株価に連動した投資成果をあげることを目指します。

ユニット・プライスの推移



ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
日本株インデックス型(TG)	▲1.98%	5.62%	▲1.70%	▲4.92%	13.54%	44.75%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	3.8%
投資信託	96.2%
合計	100.0%

※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(04/09)を「100」として指数化したものです。

【参考】日本株インデックス型(TG)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

インデックスファンド225 (運用会社:日興アセットマネジメント株式会社)

<基準価額の騰落率>

	1ヶ月	3ヶ月	6ヵ月	1年	3年
インデックスファンド225	▲1.98%	6.25%	▲1.22%	▲4.09%	18.05%
日経225	▲2.59%	5.61%	▲1.84%	▲5.40%	13.79%

※基準価額の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

<国内株式組入上位5業種>

順位	業種	比率
1	電気機器	16.6%
2	情報・通信業	12.2%
3	小売業	11.5%
4	化学	8.2%
5	医薬品	7.9%

<資産構成比率>

株式	99.9%
うち先物	2.0%
現金その他	2.1%

※「資産構成比率」「株式組入上位10銘柄」の比率は純資産総額を、「株式組入上位5業種」の比率は組入株式の評価額の合計を、それぞれ100%として計算したものです。

※「資産構成比率」はマザーファンドの投資状況を反映した実質の組入比率です。

<国内株式組入上位10銘柄>(銘柄数 225銘柄)

順位	銘柄	業種	比率
1	ファーストリテイリング	小売業	7.47%
2	ソフトバンクグループ	情報・通信業	4.53%
3	KDDI	情報・通信業	4.33%
4	ファナック	電気機器	3.94%
5	京セラ	電気機器	2.23%
6	ダイキン工業	機械	2.16%
7	東京エレクトロン	電気機器	2.05%
8	アステラス製薬	医薬品	1.82%
9	テルモ	精密機器	1.79%
10	セコム	サービス業	1.74%

※「株式組入上位5業種」「株式組入上位10銘柄」はマザーファンドの状況です。業種は東証33業種分類によるものです。

<運用コメント>

9月の国内株式市場は、日経平均株価が前月末比マイナス2.59%と下落しました。

前半は、米国における市場予想を下回る内容の経済指標の発表などによる景気の先行き不透明感や、円高/アメリカドル安の進行などから、国内株式市場は下落しました。後半は、円高/アメリカドル安の継続や、欧州大手銀行の経営不安を背景とする投資家のリスク回避姿勢などが株価の重しとなる一方で、日銀が金融政策決定会合において決定した新しい金融緩和の枠組みが好感されたことや、原油価格の上昇から関連銘柄が堅調に推移したことなどが支援材料となり、国内株式市場は一進一退でした。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

日本株アクティブ型(TG)

運用方針

国内の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、東証株価指数を中長期的に上回る投資成果をあげることを目指します。

ユニット・プライスの推移



ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
日本株アクティブ型(TG)	1.52%	3.39%	▲0.64%	1.26%	16.12%	32.40%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	4.2%
投資信託	95.8%
合計	100.0%

※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点をも「100」として指数化したものです。

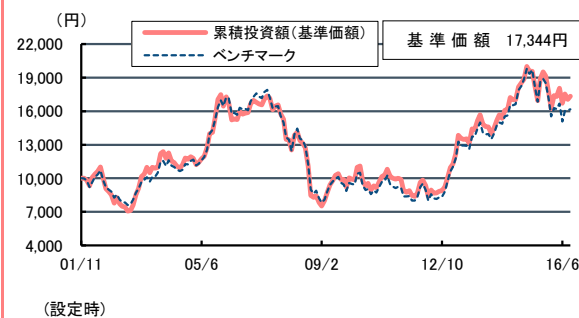
【参考】日本株アクティブ型(TG)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

フィデリティ・日本成長株・ファンドVA3(適格機関投資家専用)

(運用会社:フィデリティ投資株式会社)

- ①主として日本株を投資対象とします。
- ②個別企業分析により、成長企業を選定し、利益成長性等と比較して妥当と思われる株価水準で投資を行ないます。

設定来の運用実績 (2016年9月30日現在)



※累積投資額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの収益分配金を再投資した実績評価額です。ただし、購入時手数料および収益分配金にかかる税金は考慮していません。ベンチマークはファンド設定日前日を10,000円として計算しています。
 ※基準価額は運用管理費用控除後のものです。
 ※当該実績は過去のものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

<運用コメント>

当月の東京株式市場は、日銀がTOPIX連動型上場投資信託(ETF)の買入れを拡大する方針を示したことを受け、TOPIXが小幅高となる一方、日経平均株価は下落を強いられました。円安進展と世界的に堅調な株価推移を好感する前月末からの流れを引き継ぎ、日本株は上昇して始まりました。しかし為替が再び円高に振れたほか、米国の金融政策を巡る思惑や、日銀がマイナス金利の深堀りに踏み切るとの懸念などから、株価は半月ばいにかけて弱含みの推移となりました。日銀が新たな金融緩和の枠組みを導入する一方で、米連邦公開市場委員会(FOMC)では追加利上げが見送られ、目先の金融政策に対する不透明感が後退したことを背景に株価が一時的に反発する場面もありましたが、円高や再燃した欧州金融不安などが重石となり、再び調整して月を終えました。月間の騰落率は、TOPIX(配当金込)が+0.34%、日経平均株価は▲2.59%でした。

※上記コメントは、資料作成時点におけるもので将来の市場環境等の変動等を保証するものではありません。

商品概要	
形態	追加型投信/国内/株式
投資対象	わが国の株式等
設定日	2001年11月29日
信託期間	原則無期限
決算日	原則、毎年11月30日(休業日のときは翌営業日)

累積リターン (2016年9月30日現在)						
	直近1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
ファンド	1.69%	3.84%	▲0.17%	2.37%	20.31%	73.44%
ベンチマーク	0.34%	7.13%	▲0.79%	▲4.15%	17.77%	61.53%

※累積リターンは、収益分配金を再投資することにより算出された収益率です。
 ※ベンチマーク:TOPIX(配当金込)

過去5期分の収益分配金(1万円当たり/税込)	
第10期(2011.11.30)	0円
第11期(2012.11.30)	0円
第12期(2013.12.02)	0円
第13期(2014.12.01)	0円
第14期(2015.11.30)	0円

純資産総額 702.3 億円 (2016年9月30日現在)

組入上位10銘柄(マザーファンド・ベース) (2016年8月31日現在)

	銘柄	業種	比率
1	ミスミグループ本社	卸売業	4.7%
2	ソフトバンクグループ	情報・通信業	4.0%
3	リンナイ	金属製品	3.4%
4	マキタ	機械	3.4%
5	三浦工業	機械	2.8%
6	東レ	繊維製品	2.6%
7	キーエンス	電気機器	2.2%
8	関西ペイント	化学	2.0%
9	ダイキン工業	機械	1.8%
10	オリックス	その他金融業	1.8%

(組入銘柄数: 273) 上位10銘柄合計 28.7% (対純資産総額比率)

ポートフォリオの状況(マザーファンド・ベース)

<資産別組入状況>

株式	98.7%
新株予約権証券(ワラント)	-
投資信託・投資証券	0.4%
現金・その他	0.8%

<市場別組入状況>

東証1部	95.5%
東証2部	1.6%
ジャスダック	1.2%
その他市場	0.9%

<組入上位5業種>

電気機器	14.1%
機械	12.5%
化学	8.9%
情報・通信業	8.7%
輸送用機器	6.6%

(対純資産総額比率)

- * 各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。
- * 業種は東証33業種に準じて表示しています。
- * 未払金等の発生により「現金・その他」の数値がマイナスになることがあります。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
 ※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

世界株式型(TG)

運用方針

日本を含む世界各国の高い配当利回りが期待できる企業の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、中長期的な成長を目指します。

ユニット・プライスの推移



ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
世界株式型(TG)	▲1.60%	1.44%	▲7.03%	▲6.48%	13.68%	23.57%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	5.0%
投資信託	95.0%
合計	100.0%

※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(2006年9月1日)を「100」として指数化したものです。
※世界株式型(TG)は2006年9月1日からの推移を示しております。

【参考】世界株式型(TG)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

アムンディ・世界好配当株式VA(適格機関投資家専用)

(運用会社:アムンディ・ジャパン株式会社)

<基準価額の騰落率>(課税前分配金再投資換算基準価額)

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
アムンディ・世界好配当株式VA	▲1.57%	1.84%	▲6.95%	▲5.74%	18.03%	42.42%
MSCIワールド・インデックス(円換算ベース)	▲2.04%	3.88%	▲5.54%	▲4.55%	21.36%	34.52%
差異	0.47%	▲2.04%	▲1.41%	▲1.19%	▲3.33%	7.90%

<純資産構成比率>

株式合計	98.6%
現金+現金+その他	1.4%
合計	100.0%

※比率はマザーファンドの内容です。

<組入地域配分比率>

地域	ウェイト
北米	26.7%
アジア・オセアニア	25.6%
その他欧州	23.9%
ユーロ圏	22.4%

※ウェイトはマザーファンドの対純資産総額比率です。

※騰落率は、年率換算していません。騰落率は月次の収益率より算出しています。

※基準価額は信託報酬控除後のものです。

※「課税前分配金再投資換算基準価額」は、この投資信託の公表している基準価額に、各収益分配金をその分配を行う日に全額再投資したと仮定して算出したものであり、委託会社が公表している基準価額とは異なる場合があります。

※MSCIワールド・インデックスは、MSCI Inc.が開発した株価指数です。同指数に関する著作権、その他の知的財産権はMSCI Inc.に帰属しております。MSCIワールド・インデックス(円換算ベース)は同社が発表した前日の指数値(ドルベース、税引後配当込み)を委託者が三菱東京UFJ銀行が発表した当日の対顧客電信売買相場仲値を用いて円換算したものです。

<株式組入上位10銘柄>

(組入銘柄数: 143)

銘柄	ウェイト	予想配当利回り	業種	国
1 ミュンヘン再保険	2.1%	5.1%	金融	ドイツ
2 カナダ帝国商業銀行	1.9%	4.7%	金融	カナダ
3 AT&T	1.8%	4.8%	電気通信サービス	米国
4 アルトリア・グループ	1.8%	3.7%	生活必需品	米国
5 グラクソ・スミスクライン	1.7%	4.9%	ヘルスケア	英国
6 チューリッヒ保険会社	1.7%	6.7%	金融	スイス
7 コカ・コーラ・アマティル	1.7%	4.4%	生活必需品	オーストラリア
8 メルク	1.7%	2.9%	ヘルスケア	米国
9 フィリップ・モリス・インターナショナル	1.7%	4.2%	生活必需品	米国
10 ウェストバンク銀行	1.6%	6.4%	金融	オーストラリア

※ウェイトは、マザーファンドの純資産総額に対する割合を表示しています。また、業種分類は、委託会社が独自に定めた分類方法で表示しております。

※予想配当利回りは、ブルームバーグのデータを基に委託会社が各銘柄の当会計年度の予想DPSを基準日の株価で割って算出しております。

<組入業種配分比率>

業種	ウェイト
公益	28.9%
金融	23.7%
電気通信サービス	13.6%
生活必需品	11.5%
ヘルスケア	8.2%
その他	12.8%

※ウェイトはマザーファンドの対純資産総額比率です。

<株式組入上位5業種>

業種	ウェイト
公益事業	28.9%
電気通信サービス	13.6%
銀行	11.1%
保険	10.1%
食品・飲料・タバコ	9.7%

※ウェイトはマザーファンドの対純資産総額比率です。

<運用コメント>

<投資環境と運用状況>

9月のグローバル株式市場は、MSCIワールド指数で0.5%の小幅上昇(ドルベース)となりました。当月は前半と後半で大きく変化しました。月前半は、ECB(欧州中央銀行)の追加緩和の方向性が不透明であることを投資家が懸念し、英国のEU(欧州連合)離脱決定以降、最も大きく下落しました。しかし、月後半になると、FRB(米連邦準備理事会)が9月の利上げを見送ったことから株式市場は反発し、上昇傾向をたどりました。セクター別では、エネルギー、情報技術、素材などが良好なパフォーマンスを記録した一方、金融はドイツ銀行やウェルズ・ファーゴの株価下落が足かせとなり、マイナスのリターンとなりました。全体としては、伝統的なディフェンシブ・セクター(電気通信サービス、ヘルスケア、生活必需品)が市場平均をアンダーパフォームしました。

当月はいくつかの銘柄について、予想配当利回りの低下とバリュエーションの上昇により利益確定の売りを行い、ポジションを若干削減しました。一方で、高い配当利回りが期待される銘柄に引き続き分散して投資を行いました。ポートフォリオ全体では、高水準で比較的安定した配当の支払いが予想されるセクターに主に投資をしながら、4地域への配分がおおむね等しくなるように維持しました。

<今後の運用方針>

我々のマクロ経済シナリオに変化はありません。2016年および2017年の世界の経済成長率は約3%と緩やかな伸びを示すと予想しています。先進国経済の成長率は、内需、特に個人消費が主にけん引しています。一方、企業の投資については低迷が続いています。物価指数は、原油価格の反発によるベース効果から緩やかに伸びが加速すると予想されますが、コア・インフレーションについては低迷が続くと見込んでいます。金融政策は積極的な緩和政策が続くものと思われ、米国では2017年6月末までに2回の利上げが行われ、ECBIは2017年3月以降も量的金融緩和政策を続けると予想します。同時に、米国および欧州は財政政策を拡大させています。支払利息の低下により財政支出に余裕が生まれました。新興国市場は引き続き世界経済の主なけん引役となっています。最近のマクロ経済データにより、中国経済が安定化していることが確認されました。

当ファンドは、予想配当利回りが高く、また、循環的要因によらない質の高い利益成長を持続できる銘柄を中心としたポートフォリオ運用によって、安定的な収益源を確保します。業種配分においては、高水準かつ比較的安定した配当支払いが見込める公益、ヘルスケア、生活必需品、金融といった業種を中心としたポートフォリオを維持し、地域別には4地域への均等配分を為替変動リスクを分散します。組入銘柄は長期的な見通しに基づいて選別しますが、株価上昇によって配当利回りが低下した銘柄については、組入比率の引き下げや、より割安な銘柄への入れ替えを行っていきます。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

新興成長国株式型(TG)

運用方針

新興成長国の企業の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、中長期的な成長を目指します。

ユニット・プライスの推移



ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
新興成長国株式型(TG)	0.15%	7.85%	3.77%	5.15%	0.25%	39.39%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	4.2%
投資信託	95.8%
合計	100.0%

※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(2006年9月1日)を「100」として指数化したものです。
 ※新興成長国株式型(TG)は2006年9月1日からの推移を示しております。

【参考】新興成長国株式型(TG)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

GIM・BRICS5・ファンド(適格機関投資家転売制限付)

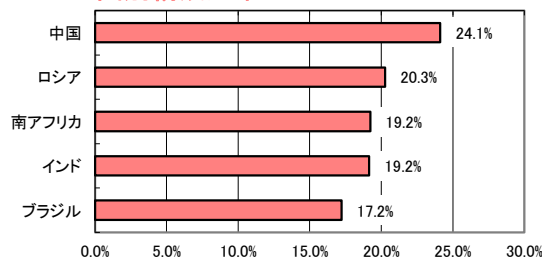
(運用会社:JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社)

<基準価額の騰落率>

	1ヶ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
GIM・BRICS5・ファンド	0.2%	8.6%	4.5%	6.6%	3.7%	81.4%

※騰落率については、基準価額に税引前分配金を再投資して計算しております。
 ※騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。
 ※ファンド設定日は2006年5月26日です。

<国別構成比率>



※マザーファンド・ベース
 ※比率は組入保有証券を100%として計算しております。
 ※国別については、MSCI分類に基づき分類していますが、委託会社の判断に基づき分類したものが一部含まれます。
 ※中国の構成比率にはMSCI分類における香港を含みます。

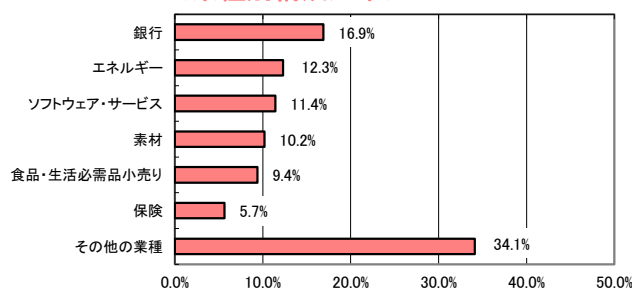
<株式組入上位10銘柄>

(銘柄数 63銘柄)

順位	銘柄	国	業種	比率
1	スベルバンク・オブ・ロシア	ロシア	銀行	4.36%
2	ルクオイル(ADR)	ロシア	エネルギー	4.22%
3	騰訊	中国	ソフトウェア・サービス	3.61%
4	HDFC	インド	銀行	3.08%
5	ナスパズ	南アフリカ	メディア	3.05%
6	MMC/リリスティックル(ADR)	ロシア	素材	2.97%
7	ビッドコープ	南アフリカ	食品・生活必需品小売り	2.94%
8	コール・インディア	インド	エネルギー	2.61%
9	ロジャス・レナー	ブラジル	小売	2.61%
10	ファーストランド	南アフリカ	各種金融	2.57%

※マザーファンド・ベース
 ※組入上位10銘柄については、開示基準日(2016年8月31日現在)がその他の情報と異なります。
 ※比率は対純資産で計算しています。
 ※国、業種については、MSCI分類に基づき分類していますが、委託会社の判断に基づき分類したものが一部含まれます。

<業種別構成比率>



※マザーファンド・ベース
 ※比率は組入保有証券を100%として計算しております。
 ※業種については、MSCI24分類に基づき分類していますが、委託会社の判断に基づき分類したものが一部含まれます。

<運用コメント>

市場概況

当月、BRICS5カ国を含む新興国株式市場は上昇しました。当月は、米国の8月の雇用統計が市場予想を下回り、9月に米国が利上げに動くとの観測が後退したことなどから、上昇して始まりました。その後は米国の金融当局者の発言を受けて早期利上げ観測が強まり、株価が大幅に調整される場面も見られましたが、FOMC(米連邦公開市場委員会)で追加利上げが見送られ、安心感が広がったことなどから上昇しました。下旬はドイツの大手銀行の財務悪化懸念が市場の重石となりましたが、月間では上昇して月の取引を終えました。このような市場環境の下、BRICS5カ国の国別ではまちはの動きとなり、インドと南アフリカは下落した一方、ブラジル、ロシア、中国は上昇しました。

運用状況

- ・当ファンドの月末基準価額は13,391円、前月末比+0.2%となりました。
- ・当月は、南アフリカを除く全ての投資通貨が対円で下落したことはマイナス要因となりましたが、保有銘柄の株価上昇が基準価額を押し上げました。
- ・組入保有証券に対する国別の投資比率は、中国、ロシアは20%を上回る比率となりました。一方でブラジル、インド、南アフリカは20%を下回る比率となりました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
 ※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載しておりますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

中国株式型(TG)

運用方針

中国の証券取引所に上場されている企業の株式や中国経済の発展と成長に係わる企業の株式等を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、中長期的な成長を目指します。

ユニット・プライスの推移



ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
中国株式型(TG)	0.47%	14.64%	3.92%	▲4.49%	14.15%	110.94%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	7.0%
投資信託	93.0%
合計	100.0%

※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(100)として指数化したものです。

【参考】中国株式型(TG)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

HSBCチャイナファンドVA II号(適格機関投資家専用) (運用会社:HSBC投信株式会社)

HSBCチャイナファンドVA II号基準価額の推移(設定来)



※基準価額は信託報酬控除後のものです。

H株とレッドチップの推移(2004年10月4日を100として指数化)



上海B株と深センB株の推移(2004年9月30日を100として指数化)



※設定日の2004年10月4日は中国本土市場では国慶節の休場日であったことから前営業日の2004年9月30日を100として指数化しています。

為替の推移(香港ドル/円)

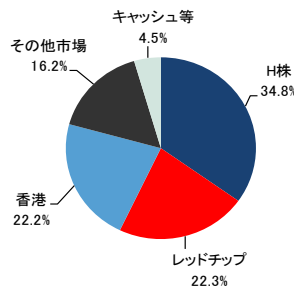


出所:為替レートは投資信託協会、株価指数はトムソン・ロイター

業種別組入れ比率

業種名称	比率
ソフトウェア・サービス	23.5%
銀行	13.7%
電気通信サービス	10.5%
不動産	8.1%
保険	6.6%
エネルギー	6.2%
自動車・自動車部品	6.0%
テクノロジー・ハードウェアおよび機器	4.3%
資本財	2.5%
素材	2.3%
消費者サービス	2.2%
耐久消費財・アパレル	2.1%
その他	7.4%
キャッシュ等	4.5%
合計	100%

市場別組入れ比率



※親信託財産の構成(対純資産総額)

<運用コメント>

【市場動向】

9月の中国株式市場は、香港市場ではH株指数が前月末比+2.1%、レッドチップ指数が-0.1%で取引を終えました。※

堅調な景気指標や企業収益の改善見通しなどがプラス要因となった一方、本土市場では不動産取引規制強化への懸念などがマイナスに働きました。

※指数の月間騰落率は、原則として、基準日の前営業日の数値(終値ベース)をもとに算出。

【運用状況】

9月の基準価額の騰落率は前月末比+0.6%と上昇しましたが参考指標(+1.2%)を下回りました。

【今後の見通し】

当社では、中国株式市場を強気に見ています。企業収益見通しの改善や政府の成長重視の政策スタンスが株価を支えようと考えます。

【投資戦略】

当社では中国株式への投資にあたり、中国経済の構造改革の恩恵を受ける企業、また収益性の改善が期待できる政府系企業を偏好しています。セクター別では、不動産セクターを引き続き強気に見ています。また、自動車セクターでは、スポーツ多目的車(SUV)で有望な新型車を持つ企業に特に注目しています。「新しい中国(ニューチャイナ)」に向けた構造転換が進む中、Eコマースなどの新分野にも注目しています。

※将来の市場環境の変動等により、当該運用方針が変更される場合があります。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

世界債券型(TG)

運用方針

日本を含む世界各国の公社債を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、シティ世界国債インデックス(含む日本/円ベース)を中長期的に上回る投資成果をあげることを目指します。

ユニット・プライスの推移



ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
世界債券型(TG)	▲1.88%	▲1.64%	▲7.80%	▲10.03%	4.44%	15.69%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	4.2%
投資信託	95.8%
合計	100.0%

※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(04/09)を「100」として指数化したものです。

【参考】世界債券型(TG)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

グローバル・ソブリン・オープンVA(適格機関投資家専用)

(運用会社:三菱UFJ国際投信株式会社)

<基準価額の騰落率> (課税前分配金再投資換算基準価額)

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
グローバル・ソブリン・オープンVA	▲1.9%	▲1.4%	▲7.6%	▲9.4%	8.5%	51.2%
シティ世界国債インデックス(円ベース、日本を含む)	▲0.7%	▲0.6%	▲6.1%	▲7.1%	9.2%	61.0%
差異	▲1.1%	▲0.7%	▲1.5%	▲2.2%	▲0.7%	▲9.7%

<純資産構成比率>

債券合計	97.8%
現金+現先+その他	2.2%
合計	100.0%

※騰落率は、年率換算していません。騰落率は月次の収益率より算出しています。

※基準価額は信託報酬控除後のものです。

※「課税前分配金再投資換算基準価額」は、この投資信託の公表している基準価額に、各収益分配金(課税前)をその分配を行う日に全額再投資したと仮定して算出したものであり、委託会社が公表している基準価額とは異なります。

※ベンチマークは基準価額との関連を考慮して、前営業日の値を用いています。

※シティ世界国債インデックスは、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている債券インデックスです。

<債券組入上位10銘柄>

銘柄	ウェイト	通貨	残存年数
(1) アメリカ国債	4.9%	USDドル	3.9
(2) フランス国債	4.6%	ユーロ	18.6
(3) アメリカ国債	3.5%	USDドル	27.4
(4) アイルランド国債	3.4%	ユーロ	8.4
(5) 日本国債	2.5%	円	18.7
(6) ベルギー国債	2.4%	ユーロ	11.5
(7) アメリカ国債	2.4%	USDドル	2.9
(8) アメリカ国債	2.4%	USDドル	3.6
(9) アメリカ国債	2.4%	USDドル	2.4
(10) アメリカ国債	2.3%	USDドル	0.6

※ウェイトはマザーファンドの対純資産総額比率です。

<組入通貨配分比率>

通貨	ウェイト
USDドル	40.1%
ユーロ	23.0%
英ポンド	5.6%
日本円	13.6%
その他	17.6%

<運用コメント>

<投資環境と運用状況>

債券市場では、各国の国債利回りはまちまちな展開となりました。上旬に発表された米国の企業景況感が市場予想を下回ったことなどから、米連邦準備制度理事会(FRB)による利上げ期待が後退し、米国では金利は低下しました。その後、欧州中銀(ECB)が政策決定会合において追加金融緩和に対する積極的な姿勢を示さなかったことなどから、欧州をはじめとする主要先進国の金利は上昇しました。下旬には米連邦公開市場委員会(FOMC)で政策金利は据え置かれましたが、経済成長率や短期金利の長期見通しが引き下げられたことなどから、米国をはじめとする主要先進国で利回りは低下しました。

為替市場では、多くの主要国通貨は円に対して下落しました。中旬にかけては、日銀が政策決定会合において政策効果の「総括的な検証」を行うことや米連邦公開市場委員会(FOMC)が行われるなど、重要イベントを控え不透明感が高まり、リスク回避の動きから多くの主要国通貨は円に対して下落しました。メキシコ・ペソは、原油安や米大統領選の先行き不透明感などから下旬にかけて下落しましたが、利上げに加え、米大統領候補者討論会にてクリントン氏優勢と伝えられたことや、主要産油国による減産期待が高まったことなどで一部値を戻したものの、月間では円に対して下落しました。

<今後の運用方針>

債券戦略では、マイナス金利の長期化が見込まれる日本やユーロ圏、金融緩和が継続される英国について長期債中心の保有とすることで、ポートフォリオのインカム向上を目指します。

為替戦略では、米ドルなど主要先進国通貨の組入れ比率を高く維持しています。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

海外リート型(TG)

運用方針

日本を除く世界各国の上場不動産投信(REIT=Real Estate Investment Trust)を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、S&P先進国REIT指数(除く日本、配当込み、円換算ベース)に連動した投資成果をあげることを目指します。

ユニット・プライスの推移



ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
海外リート型(TG)	▲3.22%	▲1.10%	▲5.70%	▲1.63%	33.42%	16.64%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	4.1%
投資信託	95.9%
合計	100.0%

※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(2006年9月1日)を「100」として指数化したものです。
 ※海外リート型(TG)は2006年9月1日からの推移を示しております。

【参考】海外リート型(TG)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

ノムラ海外REITインデックス・ファンドVA(適格機関投資家専用)

(運用会社:野村アセットマネジメント株式会社)

<基準価額の騰落率>

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
ノムラ海外REITインデックス ファンドVA	▲3.2%	▲0.8%	▲5.7%	▲0.8%	36.2%
ベンチマーク	▲3.1%	▲0.5%	▲5.3%	0.2%	47.3%

「S&P先進国REIT指数(除く日本)」はスタンダード&プアーズ ファイナンシャル サービスズ エル エル シーの所有する登録商標であり、野村アセットマネジメントに対して利用許諾が与えられています。スタンダード&プアーズは本商品を推奨・支持・販売・促進等するものではなく、また本商品に対する投資適格性等に関し、いかなる意思表示等を行なうものではありません。

※収益率の各計算期間は、作成基準日から過去に遡った期間としております。

※ベンチマークである、S&P先進国REIT指数(除く日本、配当込み、円換算ベース)はS&P先進国REIT指数(除く日本、配当込み、ドルベース)を委託会社において円換算したものです。

<資産別配分比率>

資産種別	純資産比
REIT(リート)	99.1%
先物	0.8%
その他の資産	0.9%
合計(※)	-

※先物の建て玉のある場合は、合計欄を表示していません。
 ※純資産比は、マザーファンドの純資産比と当ファンドが保有するマザーファンド比率から算出しております。

<実質通貨配分>

通貨	純資産比
日本・円	0.0%
外貨計	100.0%
アメリカ・ドル	72.6%
ユーロ	6.9%
イギリス・ポンド	5.0%
その他の外貨	15.4%

※実質通貨配分は為替予約等を含めた実質的な比率をいいます。

<国・地域別配分>

国・地域	純資産比
アメリカ	73.2%
オーストラリア	8.1%
イギリス	4.9%
シンガポール	3.2%
オランダ	2.9%
その他の国・地域	8.5%
合計(※)	-

※先物の建て玉のある場合は、合計欄を表示していません。

<組入上位10銘柄>

	銘柄	国・地域	純資産比
1	SIMON PROPERTY GROUP INC	アメリカ	5.8%
2	PUBLIC STORAGE	アメリカ	3.0%
3	PROLOGIS INC	アメリカ	2.5%
4	WELLTOWER INC	アメリカ	2.4%
5	UNIBAIL RODAMCO-NA	オランダ	2.4%
6	VENTAS INC	アメリカ	2.2%
7	AVALONBAY COMMUNITIES INC	アメリカ	2.2%
8	EQUITY RESIDENTIAL	アメリカ	2.1%
9	BOSTON PROPERTIES	アメリカ	1.8%
10	SCENTRE GROUP	オーストラリア	1.7%

※純資産比は、マザーファンドの純資産比と当ファンドが保有するマザーファンド比率から算出しております。

※国・地域は原則発行国・地域で区分しております。

<市場コメント>

●8月の米中古住宅販売成約指数が前月比で低下したことや、米国株式市場が下落したことなどを背景に、外国リート市場は米国を中心に下落しました。FOMC(米連邦公開市場委員会)で米国の利上げが見送られ、政策金利見直しも引き下げられたことなどを背景に、米ドル、ユーロは対円下落(円高)しました。

(野村アセットマネジメント作成)

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載しておりますので必ずご参照ください。

<純資産総額>

純資産総額 12.4 億円

<組入銘柄数>

組入銘柄数 321 銘柄

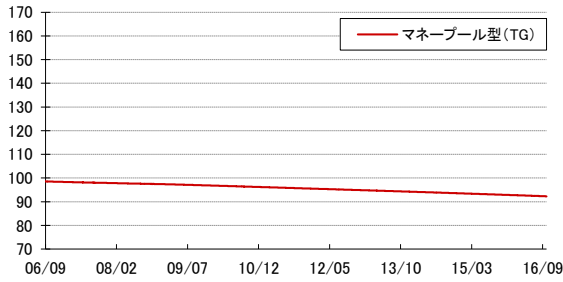
特別勘定名称

マネープール型(TG)

運用方針

他の特別勘定で運用している資金の一時退避を目的とし、国内の公社債および短期金融商品等を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、安定した投資成果をあげることを目指します。

ユニット・プライスの推移



ユニット・プライスの騰落率

	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
マネープール型(TG)	▲0.07%	▲0.22%	▲0.42%	▲0.80%	▲2.25%	▲7.73%

特別勘定資産内訳

	構成比 (%)
現預金・その他	9.8%
投資信託	90.2%
合計	100.0%

※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点をも「100」として指数化したものです。

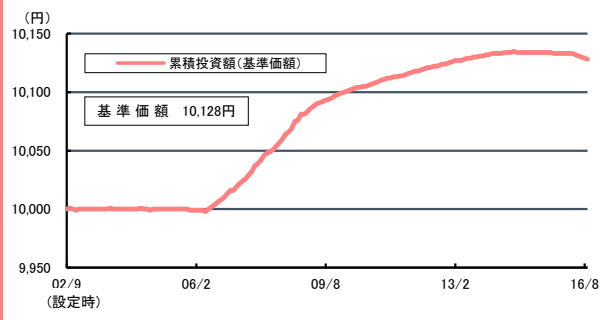
【参考】マネープール型(TG)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

フィデリティ・マネー・プールVA(適格機関投資家専用)

(運用会社:フィデリティ投信株式会社)

◆本邦通貨表示の公社債等を主要な投資対象とし、安定した収益の確保を図ることを目的として運用を行ないます。

設定来の運用実績 (2016年9月30日現在)



※累積投資額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの収益分配金を再投資した実績評価額です。
ただし、購入時手数料および収益分配金にかかる税金は考慮していません。
※当ファンドは、ベンチマークを設定しておりません。
※基準価額は運用管理費用控除後のものです。
※当該実績は過去のものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

純資産総額 94.7 億円 (2016年9月30日現在)

ポートフォリオの状況(マザーファンド・ベース) (2016年8月31日現在)

<資産別組入状況>

債券	-
CP	-
CD	-
現金・その他	100.0%

<組入資産格付内訳>

AAA/Aaa	-
AA/Aa	-
A	-
A-1/P-1	-

平均残存日数

-

平均残存年数

-

(対純資産総額比率)

格付は、S&P社もしくはムーディーズ社による格付を採用し、S&P社の格付を優先して採用しています。「(プラス/マイナス)」の符号は省略しています。なお、両社による格付のない場合は、「格付なし」に分類しています。

商品概要

形態	追加型投信/国内/債券
投資対象	本邦通貨表示の公社債等
設定日	2002年9月20日
信託期間	原則無期限
決算日	原則、毎年11月30日(休業日のときは翌営業日)

累積リターン

(2016年9月30日現在)

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
ファンド	▲0.01%	▲0.03%	▲0.05%	▲0.06%	▲0.02%	1.28%

※累積リターンは、収益分配金を再投資することにより算出された収益率です。

過去5期分の収益分配金(1万円当たり/税込)

第10期(2011.11.30)	0円
第11期(2012.11.30)	0円
第12期(2013.12.02)	0円
第13期(2014.12.01)	0円
第14期(2015.11.30)	0円

組入上位10銘柄(マザーファンド・ベース)

(2016年8月31日現在)

	銘柄	種類	格付	比率
1	-	-	-	-
2	-	-	-	-
3	-	-	-	-
4	-	-	-	-
5	-	-	-	-
6	-	-	-	-
7	-	-	-	-
8	-	-	-	-
9	-	-	-	-
10	-	-	-	-

(組入銘柄数: 0)

上位10銘柄合計 0.0%

(対純資産総額比率)

* 各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

ご注意いただきたい事項

▲ 投資リスクについて

この保険の据置(運用)期間中の運用は特別勘定で行なわれます。特別勘定資産の運用実績に基づいて年金額、死亡給付金額および解約払戻金額等が変動(増減)します。特別勘定資産の運用は、株式および公社債等の価格変動と為替変動等に伴う投資リスクがあり、運用実績によってはお受け取りになる年金額や解約払戻金額の合計額が一時払保険料を下回ることがあります。これらのリスクはすべてご契約者に帰属します。

▲ 元本欠損が生じる場合があります

解約の時期、被保険者の契約年齢等の諸条件により、ご契約者等が受け取る金額の合計額が、お払込保険料の合計額を下回る場合もあります。保険会社の業務または財産の状況の変化により、年金額、死亡給付金額、解約払戻金額等が削減されることがあります。

▲ 諸費用について

契約初期費	一時払保険料に対して 5.0% を特別勘定繰入前に控除します。
保険関係費	特別勘定の資産総額に対して (年率0.75%+運用実績に応じた費用^(※)) /365日を毎日控除します。 ※ 運用実績に応じた費用:運用実績を毎日判定し、運用実績が 年率1.5%を超過 した場合のみ、 超過分1%あたり0.1%(上限1.25%) を控除します。
移転費	積立金の移転が年間13回以上のとき、 移転一回につき1,000円 を、保険会社が移転を受け付けた日末に積立金から控除します。
年金管理費	年金支払開始日以後、支払年金額の 1% を年金支払日に控除します。
資産運用関係費	日本株インデックス型(TG) 年率0.5616%程度
	日本株アクティブ型(TG) 年率0.9504%程度
	世界株式型(TG) 年率0.8316%程度
	新興成長国株式型(TG) 年率1.188%程度
	中国株式型(TG) 年率1.2096%程度
	世界債券型(TG) 年率0.918%程度
	海外リート型(TG) 年率0.432%程度
	マネープール型(TG) 年率0.00918%~0.54%程度

資産運用関係費は将来変更されることがあります。

その他お客さまにご負担いただく手数料には、信託事務の諸費用等、有価証券の売買委託手数料および消費税等の税金がかかりますが、費用の発生前に金額や割合を確定することが困難なため表示することができません。また、これらの費用は各特別勘定がその保有資産から負担するため、基準価額に反映することとなります。したがって、お客さまはこれらの費用を間接的に負担することとなります。

その他ご注意いただきたい事項

- 当資料は、特別勘定の主な投資対象である投資信託の勧誘を目的としたものではありません。
- 新変額個人年金保険「リズナブル」は、生命保険商品であり投資信託ではありません。また、ご契約者様が直接投資信託を保有されている訳ではありません。
- 新変額個人年金には複数の特別勘定グループが設定されており、「リズナブル」には「特別勘定グループ(TG型)」が設定されています。保険料繰り入れおよび積立金の移転は「特別勘定グループ(TG型)」に属する特別勘定に限定されます。「特別勘定グループ(TG型)」以外の特別勘定グループに属する特別勘定への保険料の繰り入れおよび積立金の移転はできません。
- 特別勘定および特別勘定の主な運用対象となる投資信託の内容が変更されることがあります。
- 特別勘定資産の運用実績は、特別勘定が主な投資対象とする投資信託の運用実績とは異なり、一致するものではありません。これは、特別勘定は投資信託のほかに、保険契約の異動等に備えて一定の現預金等を保有していることや、積立金の計算にあたり投資信託の値動きには反映されていない保険にかかる費用等を特別勘定資産から控除していることなどによるものです。
- ユニット・プライスとは、特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の参考値で、各特別勘定の運用開始時の値を「100」として指数化したものです。

新変額個人年金保険(無配当)「リズナブル」は現在販売しておりません。